

外国人児童生徒等教育研修 第2回対面研修

2023年8月8日

子どもたちのことばの 力を把握する —DLA「話す」を通して—

米本和弘（東京学芸大学）



東京学芸大学
先端教育人材育成推進機構
外国人児童生徒教育推進ユニット

ご自身の言語能力は？

ご自身の外国語の**習得状況**を
お書きください。

⑩ 特技・ 資格等	外国語の習得状況	パソコンの習得状況
	特技・資格・賞等	

本講義の目的

- 子どもの実態を把握する力（捉える力）を養う
 - 子どもの日本語の力を評価する視点
 - DLAの考え方・実施方法について理解を深める
- 自分が持っている言語への視点について検討・見直す

何のための「評価」か

- 入学試験..... 選抜的評価
- プレースメントテスト... 診断的評価
- 単元テスト..... 形成的評価
- 期末試験..... 総括的評価

伊東（2008）

→ それぞれに評価を行う目的＝見たい／見られるものが違う。



文部科学省初等中等教育局国際教育課

日本語指導のコース設計

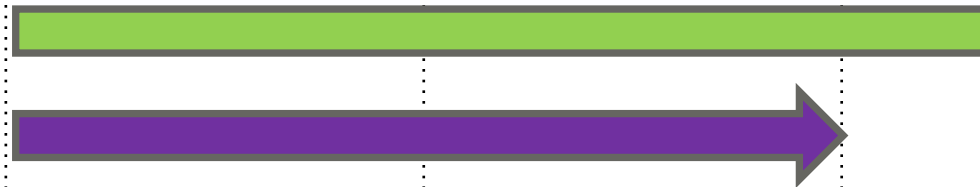
どのように**指導** ⇄ **評価**するのか？

年 ~ |

日本語



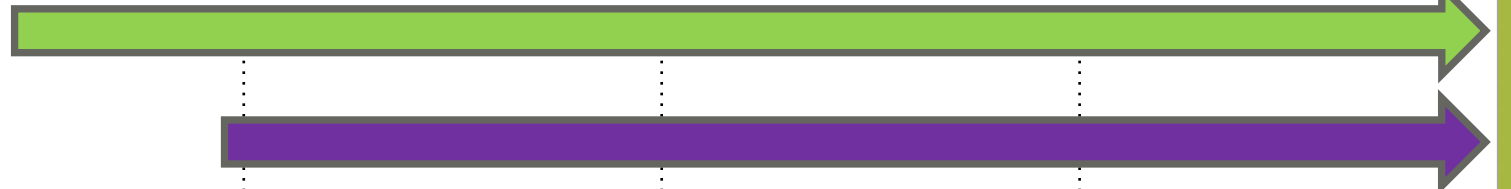
日本語の基礎
(文字・表記
語彙・文法)



技能別日本語



教科と日本語の
統合学習



外国人児童生徒のためのJSL対話型 アセスメント（Dialogic Language Assessment）について

DLAのねらい

- ・ 日常会話はできるが、教科学習に困難を感じている児童生徒を対象とする。
- ・ 言語能力を把握し、教科学習支援のあり方を検討する。
指導計画、学習活動・教材の選択 → 興味関心・学習意欲の喚起

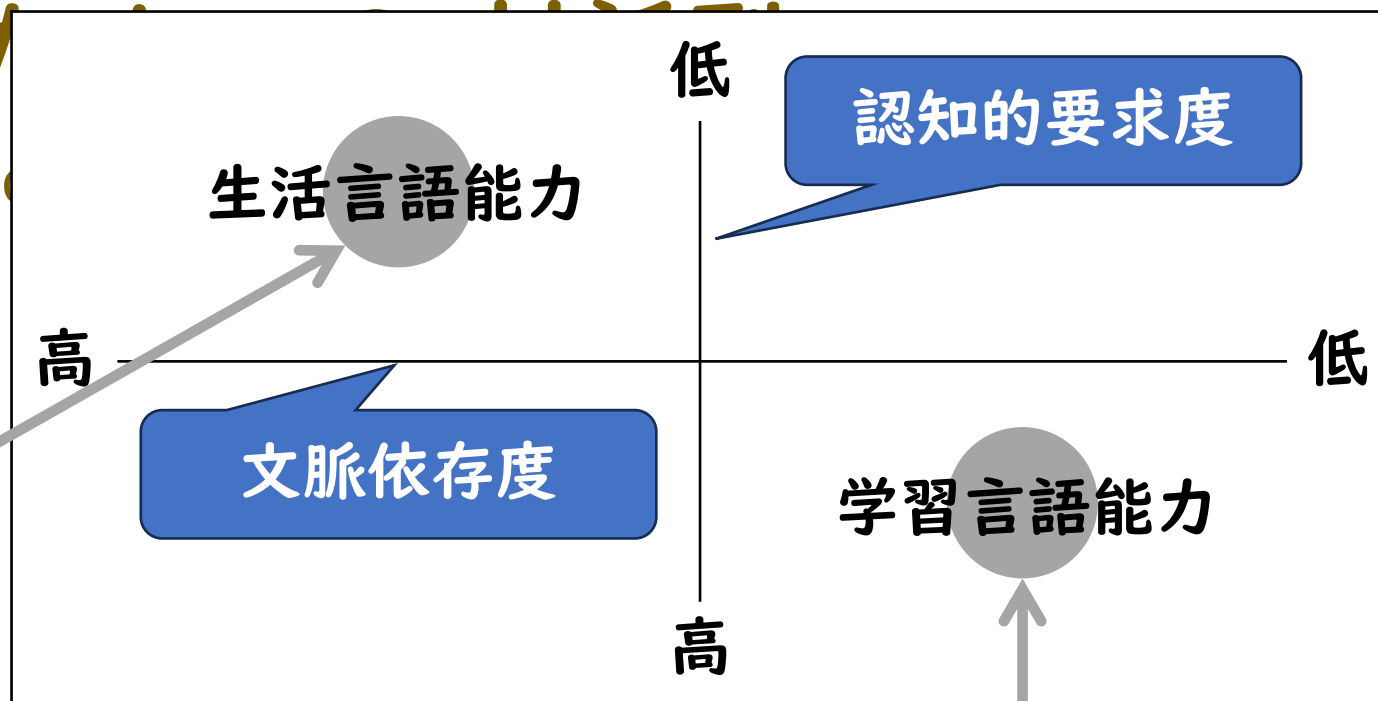
DLAの特徴

- ・ DLAの活用は「対話型」が基本。実施過程＝学びの機会。
- ・ 対話を通して「潜在的な力」を引き出す。

外国人児童生徒の アセスメント (Dial)

子どもの言語能力観

Cummins (2001, 2010),
カミンズ・中島 (2021)



会話の流暢さ

対面場面で会話を続ける能力。家庭や学校での集中的な接触を通して、1年～2年で習得。

弁別的言語能力

文字認識、音韻意識、文字と音との関係、解読能力。指導を通して、もしくは言語的に豊かな環境で育まれる。

教科学習言語能力

使用頻度の低い語彙、複雑な構文や抽象的な表現を理解・算出する能力。母語話者レベル到達まで最低でも5年の接触が必要。

JSL評価参照枠 〈全体〉

日本語プログラム	～6か月	～1年	～1年6か月	～2年
サバイバル 日本語	<p>JSL評価参照枠（在籍学級参加との関係）</p> <p>ステージ1 学校生活に必要な日本語の習得が始まる</p> <p>ステージ2 支援を得て、学校生活に必要な日本語の習得が進む</p>			
日本語の基礎 （文字・表記 語彙・文法）	<p>ステージ3 支援を得て、日常的なトピックについて理解し、学級活動にも部分的にある程度参加できる</p>			
技能別日本語	<p>ステージ4 日常的なトピックについて理解し、学級活動にある程度参加できる</p> <p>ステージ5 教科内容と関連したトピックについて理解し、授業にある程度の支援を得て参加できる。</p>			
教科と日本語の 統合学習	<p>ステージ6 教科内容と関連したトピックについて理解し、積極的に授業に参加できる</p>			

緑：小低学年
青：小高学年以上

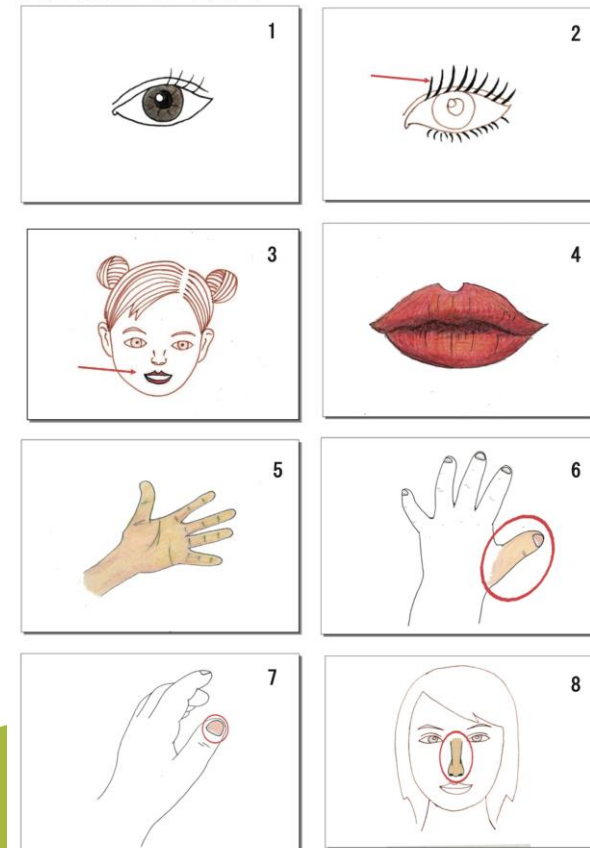
外国人児童生徒の日本語力診断テスト（新タイプ） アセスメント

「名前を教えてください」「友だちがいますか」「友だちとどんなことをして遊びますか」等、会話を通しての基礎的な日本語力の確認、イラストを使っての語彙力の確認

構成

〈はじめの一步〉 「導入会話」「語彙力チェック」	5分程度
DLA 〈話す〉	10-15分
DLA 〈読む〉	20-30分
DLA 〈書く〉	20-40分
DLA 〈聴く〉	15-20分

1. DLA 〈はじめの一步〉 語彙カード



DLA 〈話す〉

目的

- ・ 教科学習に必要な読む力、書く力の土台となる会話力を総合的に測る

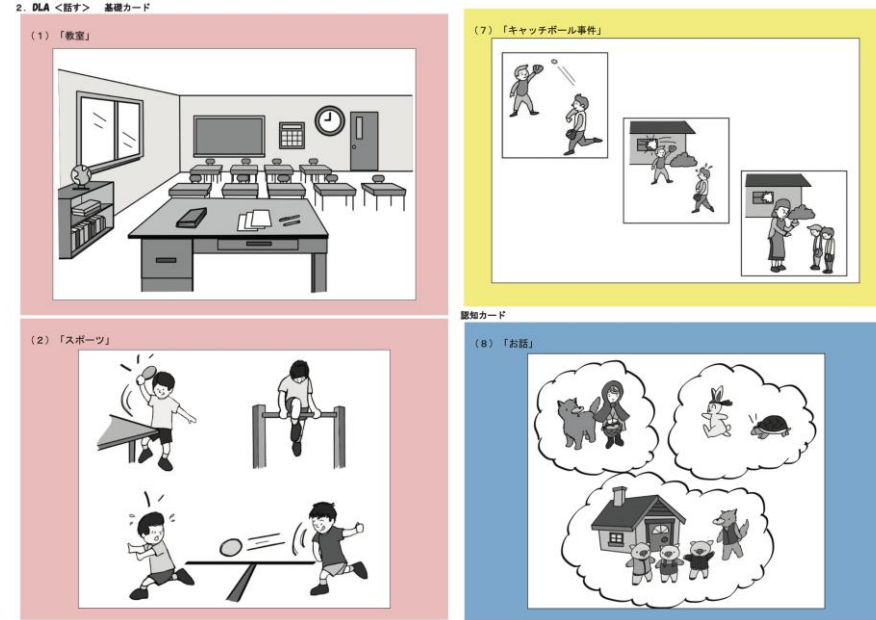
対象

- ・ 〈はじめの一步〉が70～80%程度できる子どもから、流暢に話せる子どもまで

DLA 〈話す〉

構成

以下の3面から総合的な話す力を測る

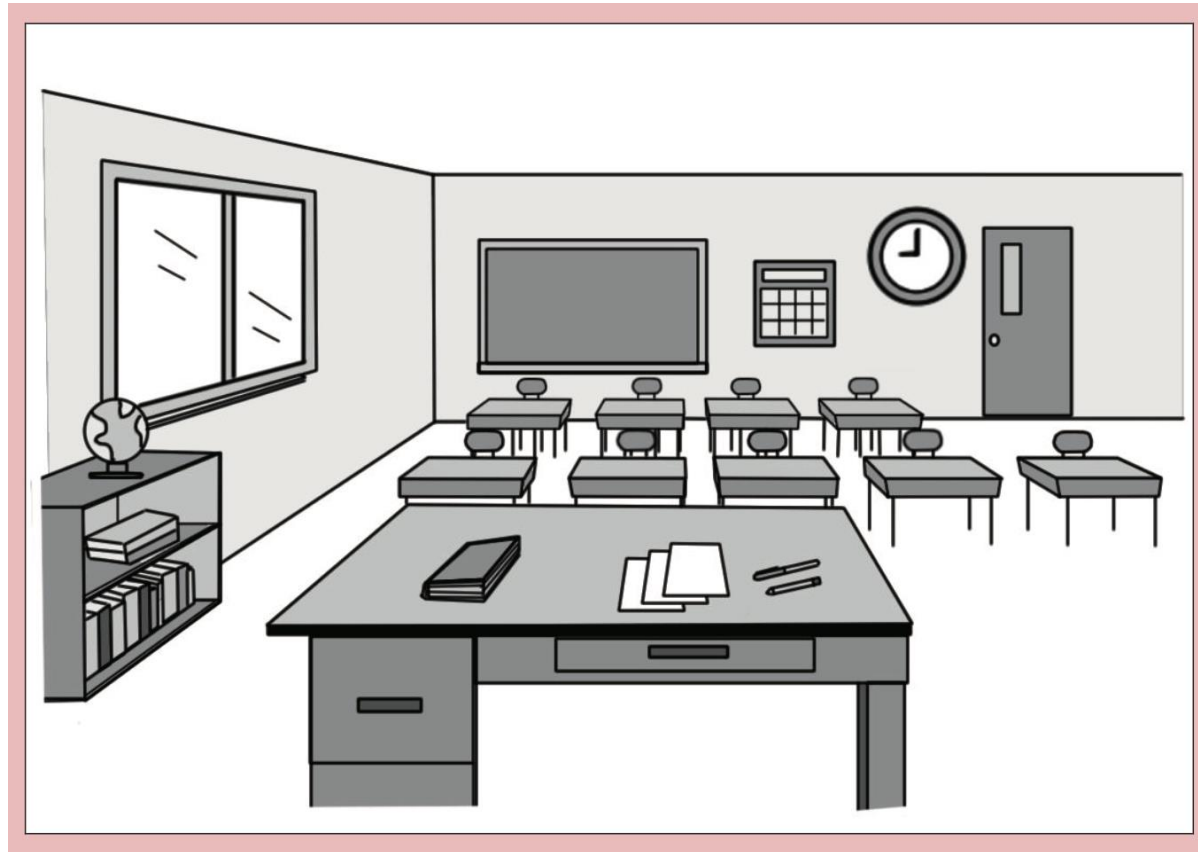


基礎	基礎的な文法や語彙を使って応答する力
対話	一対一でのやりとりに参加して与えられたタスクをこなせる力
認知	自分の考えや意見をまとめて述べる認知面の力

カードを使いながら、会話を引き出す。

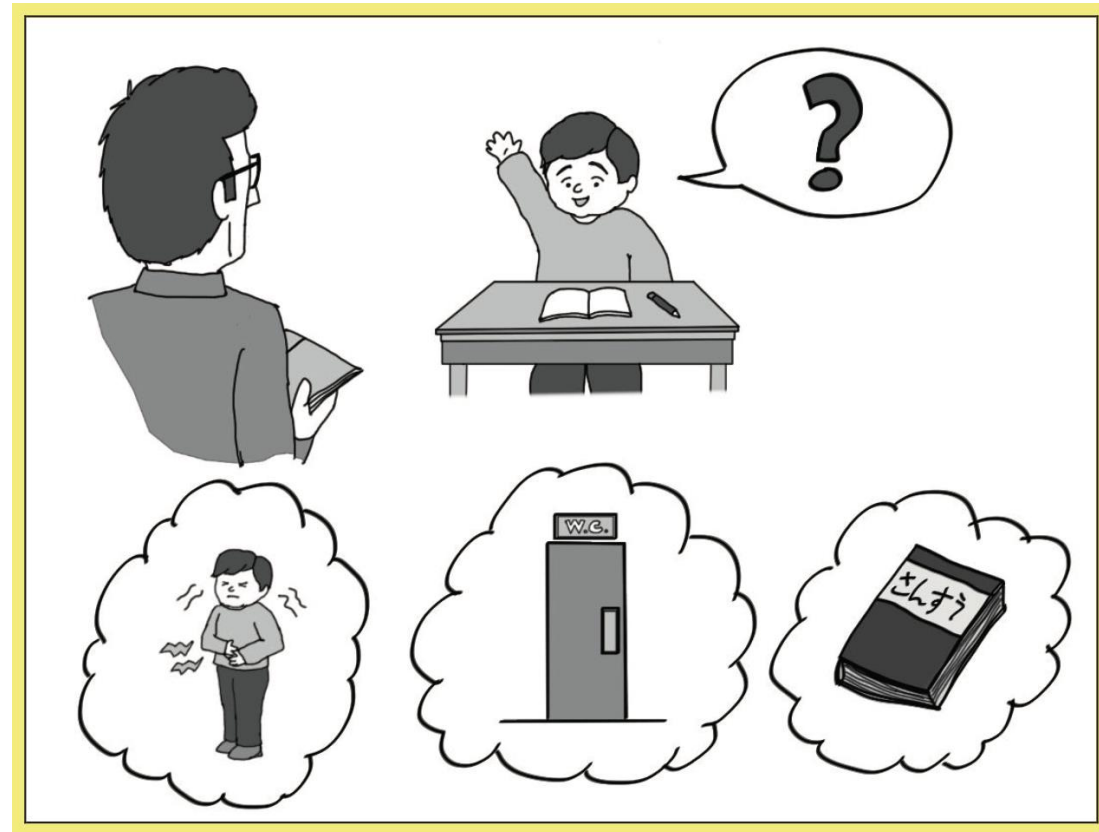
基礎タスク

基礎的な文法や語彙を使って応答する力



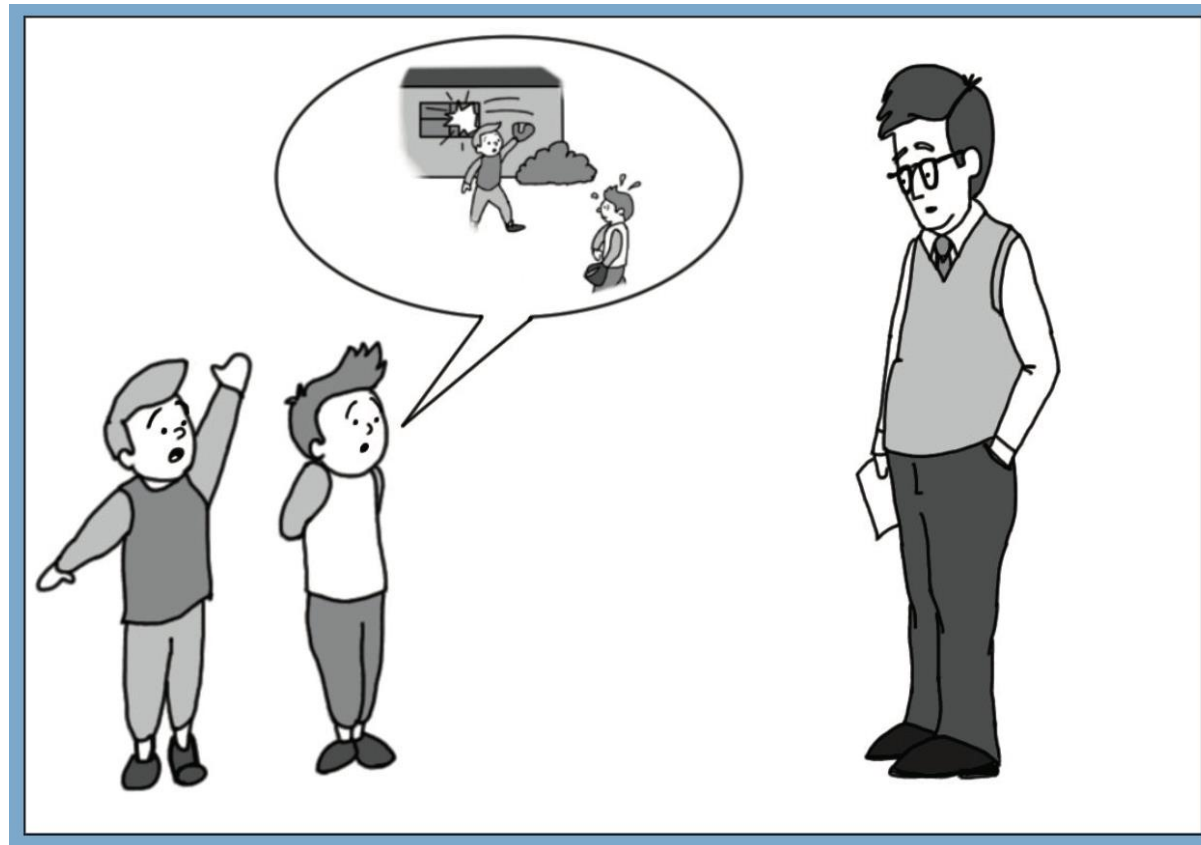
対話タスク

一対一でのやりとりに参加して与えられたタスクをこなせる力



認知タスク

自分の考えや意見をまとめて述べる認知面の力



評価の流れ

1. タスク（基礎・対話・認知）を実施
★ 流れを重視、インタビュー時に評価をしない
2. 診断シートの記入【量的評価】
★ 正答／無回答（不適切な返答を含む）
3. 質的評価シートの記入【質的評価】
★ 3段階（とてもよい／ふつう／もうすこし）で評価
4. JSL評価参照枠〈話す〉のステージ判定

DLA 〈話す〉をやってみましょう

① 3人で1グループになってください。教師役、子ども役、観察役を決めてください。3人で相談をして、子どもの年齢を「小学校低学年」「中学年」「高学年」「中学生」から選んでください。

② 子ども役の方は、質的評価シートを見て、自分が演じる子どもの言語能力を設定してください。★ 教師役と観察役にはわからないように！

③ 以下の認知タスクを実施してください。

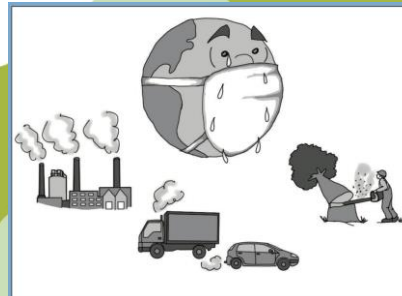
小学校低学年・中学年 「消防車」

小学校高学年・中学生 「環境問題」

★ 教師役：発話メモを見ながら質問をする。

子ども役：想定した言語能力を意識しながら答える。

観察役：診断シートを見ながら、子ども役の発話を記録する。



評価の流れ

1. タスク（基礎・対話・認知）を実施
★ 流れを重視、インタビュー時に評価

2. 診断シートの記入【量的評価】 →
★ 正答／無回答（不適切な返答を含む）

3. 質的評価シート【質的評価】
★ 3段階（と）
観察者の記録を見てみましょう。 評価

4. JSL評価参照枠〈話す〉のステージ判定

■基礎タスク■		
評価項目	評価	
	<input type="checkbox"/> 正答 <input type="checkbox"/> 無回答 <input type="checkbox"/> に✓	
■「教室」カード（1）		
①「ここはどこですか」	（場所の認識）	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
②「この部屋に何がありますか」	（モノの存在）	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
③「先生の机はありますか」	（モノの所在）	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
④「では、先生のいすは？」	（ある／いるの選択）	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
⑤「先生はいますか」	（動詞の否定）	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
⑥「では、子どもは？」	（動詞の否定）	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
⑦「ペンはどこにありますか」	（存在の位置）	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
⑧「時計はありますか」	（ある／いるの選択）	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
⑨「今、何時だと思いますか」	（時刻）*学習済みの子どものみ評価	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

評価の流れ

診断シートをもとに、子どもの発話を質的に見てみましょう。観察役と教師役の評価と子ども役の設定を比べてみましょう。そして、なぜそのように考えたのかも話してみましょう。

3. 質的評価シートの記入【質的評価】 →

★ とてもよい / ふつう / もうすこしで評価

例) どんな単語を使っていましたか?
 どんな間違いをしていましたか?
 どんな話し方でしたか?

名前: _____ (男・女) 学年(所属): _____ 年 月 日

当てはまる評価点(5・3・1)に○をつける。判断に揺れる場合は、中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。

■評価基準 ■ 5:とてもよい 3:ふつう 1:もう少し

DLA<話す> 《質的評価》		
話の内容とまとめ		
基礎・対話タスク達成度	課せられたタスクがこなせる	5 3 1
認知タスク達成度	内容が豊富でまとまりのある話、説明、理由、意見等が言える	5 3 1
文・段落の質		
文の質	自分で単文が作れる	5 3 1
段落の質	単文ばかりでなく、複文を使い、段落を構成できる	5 3 1
文法的正確度		
文法的正確度	正しい文法で話すことができる	5 3 1
語彙		
日常語彙	身近な日常語彙が使える	5 3 1
語彙の質 (教科学習語彙)	話題や内容に相応しい語彙を選んで、正しく使うことができる (教科学習語彙を含む)	5 3 1
発音・流暢度		
発音・イントネーション	自然な発音やイントネーション、だれが聞いてもわかる	5 3 1
流暢さ	やり取りが自然でなめらかである	5 3 1
話す態度		
話す態度	自分から進んで発言し、会話をリードできる	5 3 1
合計⇒		/ 10 = 平均⇒

評価の流れ

1. タスク（基礎・対話・認知）
★ 流れを重視、インタビュ

ステージ	話の内容・ まとめ	文・段落の質	文法的正確度	語彙	発音・流暢度	話す態度
6	<input type="checkbox"/> 年齢相応の教科内容と関連した認知タスクがこなせる	<input type="checkbox"/> まとまった話が1人でできる	<input type="checkbox"/> 文法的正確度が高い	<input type="checkbox"/> 年齢相応の教科学習語彙が使える	<input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度が大変高い	<input type="checkbox"/> 自分から進んで発言し、会話を自らリードできる
5	<input type="checkbox"/> 年齢相応の教科内容と関連した認知タスクがある程度こなせる	<input type="checkbox"/> ある程度まとまった話ができる	<input type="checkbox"/> 文法的正確度がある程度高い	<input type="checkbox"/> 教科学習語彙がある程度使える	<input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度が高い	<input type="checkbox"/> 様々な会話に積極的に参加することができる
4	<input type="checkbox"/> 対話タスクがこなせる	<input type="checkbox"/> 文を生成し、ある程度連文ができる	<input type="checkbox"/> 連文レベルで誤用がほとんど目立たない	<input type="checkbox"/> 日常語彙が使える	<input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度がある	<input type="checkbox"/> 聞かれた質問に答えることができる
3	<input type="checkbox"/> 対話タスクがある程度こなせる	<input type="checkbox"/> 単文レベルの応答ができる	<input type="checkbox"/> 単文は生成できるが、助詞や活用などの誤用が目立つ	<input type="checkbox"/> 身近な日常語彙が使える	<input type="checkbox"/> 流暢度が低い	<input type="checkbox"/> 聞かれた質問にある程度答えることができる
2	<input type="checkbox"/> 基礎タスクがある程度こなせる	<input type="checkbox"/> 二語文	<input type="checkbox"/> 語順が乱れ、活用が不正確	<input type="checkbox"/> 基礎語彙が使える	<input type="checkbox"/> 流暢さなし	<input type="checkbox"/> 定型表現や知っている単語でコミュニケーションをとろうとする
1	<input type="checkbox"/> 基礎タスクの質問にいくつか答えられる	<input type="checkbox"/> 一語文	<input type="checkbox"/> 単語レベル	<input type="checkbox"/> わずかな基礎語彙が使える	<input type="checkbox"/> 流暢さなし	<input type="checkbox"/> ジェスチャーや表情でコミュニケーションをとろうとする

質的評価シートを参照しながら、各項目で、どのステージにいるか考えてみましょう。

質的評価】

（かつう／もろすこし）で評価

4. JSL評価参照枠〈話す〉のステージ判定

最終的に〈話す〉の総合的なステージは何だと言えるでしょうか。

DLAを用いた評価と支援・指導

- 一貫した視点から、継続的に子どもの言語能力を把握できる
→ 個に応じた指導・支援の一助となる
 - 子どもと対話し、理解を深め、寄り添う機会
- ↕
- 子どもの言語能力を把握するツールの一つ
 - 日頃の子どもとの会話／自身の発話をふりかえるツール

講義のふりかえりシート

- ・ 子どもの実態を把握する力（捉える力）を養う 5 - 3 - 1
 - ・ 子どもの日本語の力を見とる視点 5 - 3 - 1
 - ・ DLAの考え方・実施方法について理解を深める 5 - 3 - 1

ご自身の言語能力は？

講義の内容を踏まえて、
ご自身の外国語の**習得状況**を
お書きください。

⑩ 特技・ 資格等	外国語の習得状況
	特技・資格・賞等

参考文献

- 伊東祐郎（2008）『日本語教師のためのテスト作成マニュアル』アルク
- ジム・カミンズ，中島和子（2021）『言語マイノリティを支える教育【新装版】』明石書店
- 文部科学省（2014）「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm
- 文部科学省（2019）「外国人児童生徒受入れの手引き【改訂版】」https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm
- Cummins, J. (2001). *Negotiating identities: Education for empowerment in a diverse society* (2nd ed.). California Association for Bilingual Education.
- Cummins, J. (2010). The three pillars of English language learning. Retrieved from <https://ritell.org/page-1553903>